

協力隊員としての1年を ふり返って



本町に派遣されて約1年。まもなく活動終了を迎える。千江さんは来町当初、広報の取材に対して「これからこの町の、魅力や好きなどところを見つけていきたい」と話していた。1年が経ち、千江さんはどんな答えを見つけたのだろうか。皆さんに贈る「ラスト・メッセージ」。

生 まれて初めて、おみくじで「凶」を引いてしまった2009年。あの衝撃のお正月から、あつという間に時は過ぎ、もう3月になってしまいました。今、「千江の輪。最終話」を書いていることが、不思議な気がしてなりません。

年齢、名字も同じ中野政民さん。このご夫婦と共にしたお昼ご飯や、縁側で楽しんだお茶。温かい家族の和をもらいました。車の運転が苦手なわたしを、いろんな場所に連れて行ってくれた南さんご一家。兄弟のように仲の良いご家族で、わたしもその一員になったかのように、いろいろな話を聞いてもらいました。

ある日、自宅に一本の電話が。「鹿を捕ったけど食べる？」。また別の日には、「猪を捕ったけど食べる？」。今まで経験したことのない内容で、とても驚きました。そんなおちゃめな電話をくれる狩猟クラブの皆さん。少々お酒が入ると、お互いのことを称えつつも、ちよっぴり自分の自慢も入っちゃう。何でも言い合える仲間の輪が、男くさくて格好良かったです。

最初は小さな一つの輪だった「千江の輪」が、今では持ちきれないくらいたくさんの方になりました。抱えきれないほどの大きくなりました。本家本元おもちの「知恵の輪」は、一見外れそうになくても、ふとした瞬間に外れてしまいます。しかしこちらの「千江の輪」は、一度つながったら最後、二度と外れることはありません。

来町当初、「わたしは協力隊員なんだから」と、いろいろ考えてガチガチになっていました。でも皆さんとの間にできた輪のおかげで、しっかりと活動を続けることができました。

昨 年の6月号から連載を開始した千江の輪。その6月号から広報のサブタイトルが「Stories」になりました(広報

紙なのには?)。この町の皆さん一人一人に、人生という名のストーリー(物語)があります。わたしは1年間、たくさんの方の物語に出演させてもらいました。それが誰かの代役なのか、はたまたまスペシャルゲストなのかは分かりません。でもわたしにとつては、すべての出演がスペシャルであり、すべての物語がノンフィクションでした。

協力隊としての活動は3月で終了します。でもこれからも、中野千江一人ひとりの物語は続きます。この町の皆さんに出演してもらえれば物語を、自分なりにつづつていきたいと思っています。皆さんの人にお世話になりました。本当にありがとうございました。そして、これからもよろしくお願います！ 中野千江

皆さんとの間にできた「輪」に支えられ、充実した活動を続けることができました。これからも、自分自身の「物語」をつづつていきます。

わたしもこの町の「人の温かさ」が好き

花島安世さん(浜松市在住) ちゃっきり娘養成講座受講生

わたしは3年間、ちゃっきり娘養成講座の受講生として、この町にお世話になりました。茶摘みや、田植え、地域の行事など、講座以外の日にも、たびたびこの町を訪れていたんですよ。ここの人たちは、気軽に「おいで」と声をかけてくれるやさしくな人ばかり。いつも「人の温かさ」を感じていました。来る回数が増えるにつれ、親しみが増してきたのを覚えています。ちゃっきり娘養成講座は今年で卒業しますが、これからもちよっぴ、この町にお邪魔する予定です。皆さんこれからもよろしくお願います。

千江さんは、一言で言えばとても頑張り屋さんです。講座の日は裏方として、みんなが楽しく取り組めるよう、常に気を配ってくれていました。お茶を用意してくれたり、懇親会の料理を手作りしてくれたり。みんなが気付かないところで頑張っていました。そういった心遣いが、とてもうれしかったです。千江さんの頑張る姿が、今も印象に残っています。



Hanajima Yasuyo

たくさんの、本当にたくさんの方たちにお世話になりました。ありがとうございました。ほんの一部ですが、ご紹介します



いつも仲よし中野さんご夫婦



鈴木狩猟クラブの皆さん



地域を愛する徳山区の皆さん



小さなお友達 ゆうかちゃん



お世話になった南さんご一家



お茶が大好きティーサークルの皆さん



農林業センターの3姉妹!?



ゆず園の美人3人衆